

# 今治市中心市街地グランドデザイン 概要版（素案）

今治市中心市街地まちづくり会議

## 今治城内堀沿い／ 金星川（外堀跡）沿い【提案】

海とつながった城下町の  
足跡を辿る散歩道  
ミズベ・ウォーク

## 今治城周辺

海水を引き込んだ堀は、様々な生き物の貴重な生息環境となっている。堀沿いの散策路を充実させつつ、港まで連続した歩行者空間を形成し、港・城の回遊性を高める。



## 今治内港沿い【提案】

港から城までをつなぐ  
海沿いの散歩道  
ミズベ・ウォーク

## はーばりー・今治港周辺

『交通』の港から『交流』の港へ』を基本コンセプトとしたみなと再生事業により整備された。月に2回おこなわれるせとうちみなとマルシェでは、多くの人が集まり賑わいが生まれている。

## 蒼社川周辺(計画中)

かつての城下町の外堀で、中心市街地の縁を流れる蒼社川は、貴重な自然環境を生かして市民がアクティビティを楽しんだり、ふらっと立ち寄り憩える公共空間として”まちの縁側“のような場所となることを目指す。

複合庁舎(計画中)  
市庁舎移転とともにまちに開かれた施設・広場を検討中。



## ネウボラ施設(計画中)

子育て世代の相談所として、また屋内外で子どもが遊ぶことのできる場所としてまちに開かれた施設整備を検討中。

## 複合庁舎(計画中)

市庁舎移転とともにまちに開かれた施設・広場を検討中。

今治地域地場産業振興センター  
今治国際ホテル

## 芝っ広場【提案】

日常からイベントまで  
大勢の人々が集う祝祭広場  
ドンドビ・フェスプラザ

## 今治市役所

庁舎機能の移転を検討しており、移転後は文化的な施設として丹下健三の設計した建築を活かしたリノベーションを検討している。

## 広小路(今治停車場線)【提案】

緑陰と賑わいあるみち広場

グリーン・アベニュー

## 駅前広場【提案】

しまなみ海道・今治の玄関口に  
複合機能を備えた交通拠点  
しまなみモビリティハブ

サイクリングターミナル

旧今治小学校

## 市役所前広場【提案】

丹下建築と一緒に活用を図る  
まちに開かれた市民広場  
タンゲ・アートプラザ

## 広小路(今治港線)【提案】

緑豊かな環境軸として  
現市庁舎・港をつなぐ  
シンボルストリート  
グリーン・アベニュー

## 寺町周辺

寺社は音楽等のイベント会場としても活用されており、今治にしかない文化創出の場としても期待される。老朽化した木造家屋や空き家の状況を把握しながら、歴史的な街並みを活かした拠点づくりが求められる。

## 美保町周辺

古くからの漁師町として、海沿いに多くの船が集まる風景は海外からの観光客にも注目されている。歴史ある石積みの防潮堤が残るなど、既存資源を活かしたまちづくりが求められる。

## 新町商店街【提案】

新たなプレイヤーの  
チャレンジの場として活用  
ラボ・ストリート

## 今治商店街【提案】

子どもの遊び場となる  
屋根付き広場  
プレイ・ストリート

本資料に掲載する施策案とイメージは、中心市街地地区の目指すべき姿を表したものであり、取組の方向性を示すものです。  
今後、関係者との協議・調整により変更となる可能性があります。

## 今治市中心市街地まちづくりについて

### 背景

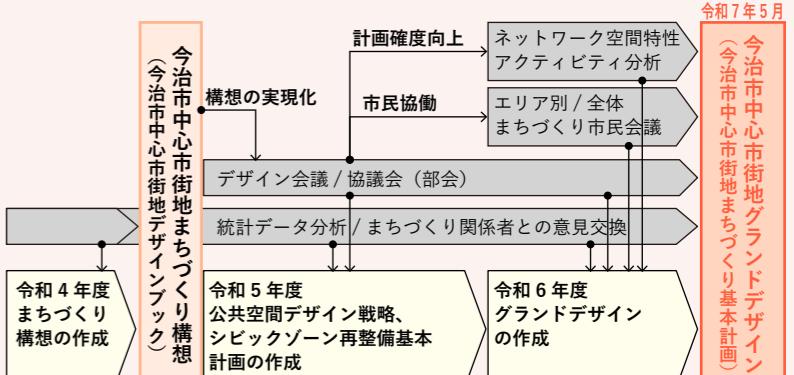
今治市は、人口減少・少子高齢化に対応したコンパクトなまちづくりによる持続可能な都市経営の実現を目指しています。このうち中心市街地は、多様な都市機能と地域資源を有する一方で、まちなかの公共施設の多くは老朽化が進み、道路などの都市基盤施設も実態に即した機能再編、将来を見据えたあり方の再検討が求められています。

近年は今治港周辺で「みなと再生」における環境整備がなされ、「せとうちみなとマルシェ」の定期開催により空間活用が進むなど、まちに賑わいが生まれつつあります。

そのため、今後は公共施設・空間の再編を契機に、公民の取組を連携させながら、日常的にまちなかに人がいる風景の広がる中心市街地へと転換していくことが求められています。

### これまでの検討経緯について

中心市街地まちづくりの検討は、令和4年度に民間でまちづくりの活動をされている方々と中心市街地の課題や将来像のお話を伺うところからスタートしました。その後策定した「中心市街地まちづくり構想」をベースに、デザイン会議や協議会、各エリアの関係者へのヒアリング、まちなかの公共空間の分析などを積み重ねながら、地域のデザイン戦略として検討を進めています。



### 目指すまちづくりの将来像

今後の中心市街地におけるまちづくりでは、港で生まれ始める賑わいをまちの日常へ広げる軸をつくることを目指します。そのために①中心市街地の全体計画と複数の事業・活動の実践が連動した長期間のまちづくり、②行政による公共空間整備と、地域の方々の組織活動（エリアマネジメント）の連携によるまちづくりをおこなっていきます。



今後は都市基盤整備とエリアマネジメントを連携させながら、グランドデザインに示すまちづくりのビジョン実現を目指します

# 将来ビジョン(素案)

## 広小路(今治港線)【提案】 緑豊かな環境軸として 現市庁舎-港をつなぐ シンボルストリート グリーン・アベニュー

- かつて丹下健三が構想した、都市空間と一体で市庁舎-港をつなぐ市民広場の思想を、緑豊かな環境軸によって新たなまちたちで実現
- 戦災復興計画で拡幅された20間(約36m)の幅員を、グリーンインフラの導入による雨水流出抑制、都市環境や生物多様性の向上など、新たな都市機能(防災・環境等)の実現にいかす
- 市民の寄附※で植樹され、成熟したクスノキを残しながら、市民の憩う居場所をつくる
- ストリートマルシェ、イルミネーションなどイベント利用が可能

## 広小路(今治停車場線)【提案】 緑陰と賑わいあるみち広場 グリーン・アベニュー

- まちの玄関口である駅前広場から港側へ、既存のクスノキを活かしながら、歩行者の流れや賑わいをつなぐみち広場を形成
- ほこみち制度の導入による賑わい創出を検討

## 市役所前広場【提案】 丹下建築と一体で活用を図る まちに開かれた市民広場 タンゲ・アートプラザ

- 市庁舎移転後に、丹下健三の設計した市役所周辺の建築群のリノベーションとともに、まちに開かれた広場として一体での活用を検討
- リノベーションする建築群と広場での一的な管理運営の可能性を検討

## 駅前広場【提案】 しまなみ海道・今治の玄関口に 複合機能を備えた交通拠点 しまなみモビリティハブ

- サイクリストをはじめ中心市街地を回遊する際の拠点として、サイクリングターミナルなど周辺施設と連携ながら、様々な交通モードの乗換機能と待合機能を強化した交通拠点(モビリティハブ)を形成
- モビリティマネジメントによる日常的な公共交通の利用促進を図る

## 芝っ広場【提案】 日常からイベントまで 大勢の人人が集う祝祭広場 ドンドビ・フェスプラザ

- ゲートに囲まれた広場をまちに開き、日常・イベント時に大勢の人人が集まることのできる広場として再編
- FC今治のパブリックビューイングのほかにも、映画鑑賞会など大型ビジョンを生かしたイベントで活用
- 公共資産としての有効活用の展開、定型化、収益化等を図る

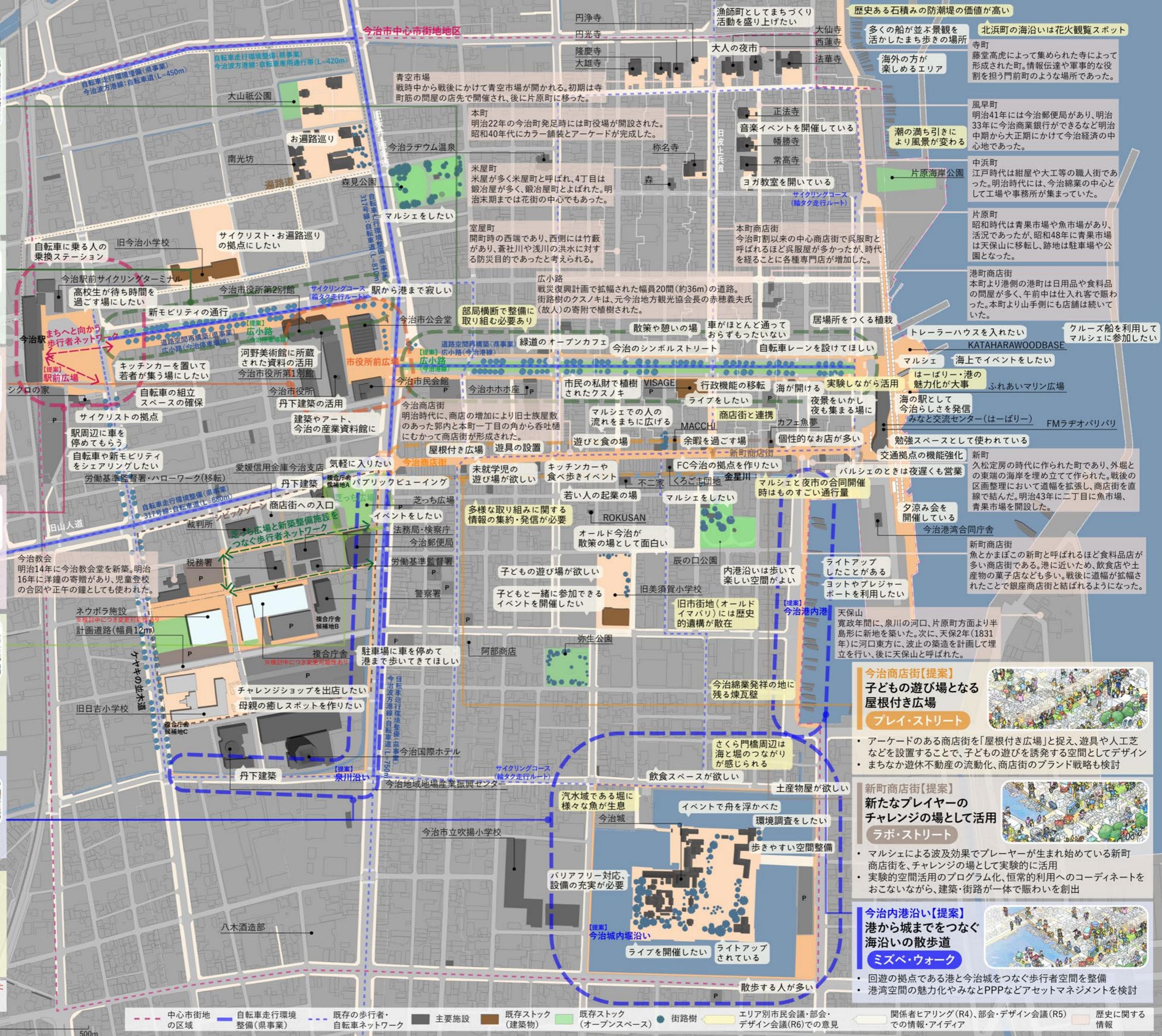
## 今治城内堀沿い／金星川(外堀跡)沿い【提案】 海とつながった城下町の 足跡を辿る散歩道 ミズベ・ウォーク

- 城下町の都市構造を伝える海とつながった水路をいかして、水辺に親しむことのできる歩行者空間を整備

## 中心市街地におけるエリアマネジメント【提案】

- 中心市街地全体にわたる組織として「エリアプラットフォーム」を立ち上げ、各エリアでまちづくりの活動をしている方々の情報共有の場を設ける
- エリアプラットフォームでは中心市街地のまちづくりの方針に関する議論をおこなうとともに、まちづくりの活動をしている方同士のマッチング、イベントの連携に向けた調整など、各エリアで展開する活動をつなぎ相乗効果を生むことを目指す

本資料に掲載する施策案とイメージは、中心市街地地区の目指すべき姿をしたものであり、取組の方向性を示すものです。  
今後、関係者との協議・調整により変更となる可能性があります。



北浜町の海沿いは花火観覧スポット  
寺町  
藤堂高虎によって集められた寺によって形成された町。情報伝達や軍事的な役割を担う門前町のような場所であった。

風早町  
明治41年には今治郵便局があり、明治33年に今治商業銀行ができるなど明治中期から大正期にかけて今治経済の中心地であった。

中浜町  
江戸時代は紺屋や大工等の職人街であった。明治時代には、今治綿業の中心として工場や事務所が集まっていた。

片原町  
昭和時代は青果市場や魚市場があり、活況であったが、昭和48年に青果市場は天保山に移転し、跡地は駐車場や公園となった。

港町商店街  
本町より港側の港町は日用品や食料品の問屋が多く、午前中は仕入れ客で賑わった。本町より山手側にも店舗は続いている。

KATAHARAWOODBASE  
マルシェ  
はーばりー・港の  
ふれあいマリン広場  
はーばりー、港の  
魅力化が大事  
みなと交流センター(はーばりー)  
FMラヂオバリバリ

新町  
久松定房の時代に作られた町であり、外堀との東端の海岸を埋め立てて作られた。戦後の区画整理において道幅を拡張し、商店街を直線で結んだ。明治43年に二丁目に魚市場、青果市場を開設した。

新町商店街  
魚とかまぼこの新町と呼ばれるほど食料品店が多い商店街である。港に近いため、飲食店や土産物の菓子店なども多い。戦後に道幅が拡幅されたことで銀座商店街と結ばれるようになった。

辰の口公園  
内港沿いは歩いて楽しい空間がよい  
旧美須賀小学校  
辰の口公園  
内港沿いには歴史的遺構が散在  
さくら門橋周辺は海と堀のつながりが感じられる  
飲食スペースが欲しい  
土産物屋が欲しい  
イベントで舟を浮かべた  
環境調査をしたい  
歩きやすい空間整備  
パリアフリー対応、設備の充実が必要

今治商店街【提案】  
子どもの遊び場となる  
屋根付き広場  
プレイ・ストリート  
アーケードのある商店街を「屋根付き広場」と捉え、遊具や人工芝などを設置することで、子どもの遊びを誘発する空間としてデザイン  
まちなか遊休不動産の流動化、商店街のブランド戦略も検討

新町商店街【提案】  
新たなプレイヤーの  
チャレンジの場として活用  
ラボ・ストリート  
マルシェによる波及効果でプレイヤーが生まれ始めている新町商店街を、チャレンジの場として実験的に活用  
実験的空间活用のプログラム化、恒常的利用へのコーディネートをおこないながら、建築・街路が一体で賑わいを創出

今治内港沿い【提案】  
港から城までをつなぐ  
海沿いの散歩道  
ミズベ・ウォーク  
回遊の拠点である港と今治城をつなぐ歩行者空間を整備  
港湾空間の魅力化やみなとPPPなどアセットマネジメントを検討

関係者ヒアリング(R4)、部会・デザイン会議(R5)  
歴史に関する情報